

2 愛知県の「子ども食育推進事業」

本県では、学校における食育を拡充するために、「子ども食育推進事業」として令和3年度には次のような事業を実施しました。

(1) 児童生徒や保護者を対象とした事業

① 「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーン

就学前の子どもをもつ保護者を対象に、「早寝・早起き・朝ごはん」を基本とした生活習慣の大切さを啓発するパンフレットを作成し、各小学校の就学時健康診断や入学説明会などに配布して、保護者の意識を高める活動を行いました。

② 小学校における「給食試食会」保護者向け食育資料の提供

各小学校・義務教育学校及び特別支援学校(小学部)における給食試食会において、食育についてプレゼンをする際に、朝ごはんの大切さや栄養バランスのよい食事について、担当者が説明する資料を提供しました。

③ あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト

小学校5・6年生児童を対象とし、地元の旬の食材を取り入れた「愛であ朝ごはん」の献立づくりや調理などを通して、親子で望ましい食生活について一緒に話し合ったり、家庭の絆を深めたりすることを目指して実施しました。

例年は、7月1日～9月上旬に親子で考えた朝ごはんの献立を募集し、予選審査で選ばれた10名の児童が、本選会場である東海学園大学名古屋キャンパスで実際に調理をして朝ごはんの出来栄を競い合います。審査委員長は「食育のすすめ」の著者で有名な服部幸應氏です。しかし、令和3年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い本選を中止しました。代わりに予選で選ばれた10点を優良賞とし、受賞作品紹介ポスターを、2021年11月24日(水)から2022年1月14日(金)まで愛知県東大手庁舎2階にて掲示しました。その後、2022年2月7日(月)から2022年3月31日(木)まで愛知県青年の家1階玄関ロビーにて掲示しました。令和3年度の応募数は、10,219点でした。

④ 朝ごはん啓発リーフレット「再発見、朝ごはんの大切さ！」の配布

子どもたちの望ましい食習慣の定着を目指して、朝ごはん啓発リーフレットを作成し、3学期に小学校5・6年生児童対象に、学級、学校掲示用に配付しました。

県内の小学生が朝ごはんをとることの大切さを見直すことができるようにするため、「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」予選優良賞受賞献立や、プロスポーツ選手の朝ごはん等を紹介し、親しみが感じられる内容で構成しました。

(2) 教職員を対象とした主な研修等の実施

① 学校食育推進者養成講座

学校における食育について実践的に活用できる専門研修を実施し、教職員の指導力向上を図るとともに、学校食育推進の核となる指導者の育成を図ることを目的に、毎年8月に開催しています。(平成22年度までは、「食に関する指導者養成講座」として開催してきましたが、平成23年度から名称を変更しました。)

<対象者>

- ・県内小・中・義務教育学校、特別支援学校(名古屋市を除く)の管理職または各学校における食育推進者(栄養教諭・学校栄養職員以外)
- ・県立特別支援学校、県立高等学校の保健主事、養護教諭、保健体育・家庭科教員等
- ・栄養教諭・学校栄養職員の参加希望者
- ・新規採用(任用替)栄養教諭、少経験者研修受講者(隔年参加)

<講座の主な内容>

- ・文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課食育調査官の講義
- ・愛知県学校給食表彰校等による研究発表

② 新任給食主任研修会

学校給食と食育の意義と役割について認識を深め、その指導と運営や管理について研修し、指導力の向上を図る目的で、毎年5月に開催しています。

(3) 栄養教諭の力量向上を図る事業

① 新規採用栄養教諭研修

表1のように、年間を通じて校内研修と校外研修を計画的に実施しています。校内研修の専門研修については、退職栄養教諭等による研修指導員が指導を担当しています。

表1 新規採用栄養教諭研修の概要

区 分		研修日数
校内研修	専門研修	15日(60時間)
	教職一般	30時間程度
校外研修	センター研修	7日
	宿泊研修	3日(2泊3日)

※ 研修指導員は、「校内専門研修 15日(1日4時間:計60時間)」を担当する。

② 少経験者研修(2年・3年目研修)

2年目、3年目の栄養教諭を対象に2年間で2日間実施しています。主な専門研修の内容です。

- ・個別的な相談指導の方法
- ・食育の推進と校内体制
- ・食に関する指導の授業づくり
- ・個に応じた栄養量の提供
- ・献立作成と食物アレルギー対応について
- ・学校給食の危機管理について

③ 中堅栄養教諭資質向上研修(前期)

6年目を対象に、4日間にわたり実施しています。主な専門研修の内容です。

- ・食の課題を通じた児童生徒・保護者との関わり方
- ・HACCPの考え方に基づいた衛生管理の実践
- ・担任等とのチームティーチングの方法と実際
- ・研究の進め方・まとめ方

④ 中堅栄養教諭資質向上研修(後期)

11年目を対象に、6日間にわたり実施しています。主な専門研修の内容です。

- ・食に関する指導の目標設定とその評価の仕方
- ・組織マネジメントとチームとしての学校における栄養教諭の役割分担
- ・食に関する指導のカリキュラムマネジメントと学校食育の評価
- ・「個別的な相談指導」の学校における組織的な取組と評価について
- ・学校給食関係法規、食育関係法規と教育法規の理解について
- ・食に関する指導の進め方とたゆまぬ教材研究

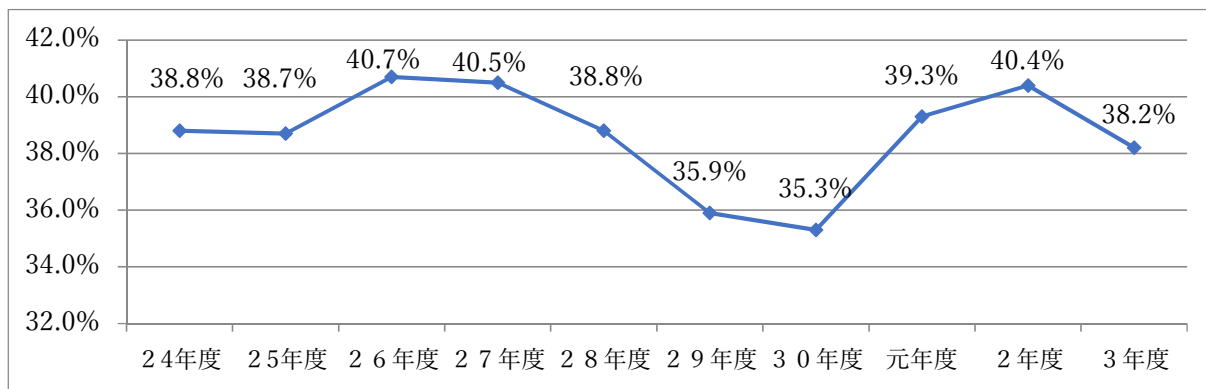


(4) 学校給食と食育の充実を図るその他の取組

① 愛知を食べる学校給食の日

学校給食に地域の農産物を積極的に活用することにより、児童生徒や教職員、保護者等が地域や県産物の理解を深め、地域に伝わる食文化や食の加工技術にふれて、より豊かな食生活を営もうとする意欲を高める機会とすることを目的に実施しています。

グラフ1 学校給食における地場産物活用率の推移(%)



「愛知を食べる学校給食の日」は、6月19日の「食育の日」を中心に、平成19年度から市町村立小中学校で実施しています。平成23年度から年間3回実施となり、各学校、共同調理場の積極的な取組により、平成26年度には40%を越えました。しかし、平成28年度から天候不順による収穫量の不安定さや野菜価格の高騰等により40%を下回りました。令和元年度以降は調査期間に「愛知を食べる学校給食の日」を実施した学校が多く見られたこともあり、活用率は再び上昇し、令和2年度には40.4%と再び40%を超えました。しかし令和3年度は、再び天候不順による収穫量の不安定さにより、40%を下回りました。今後も引き続き、目標(あいち食育いきいきプラン2025)の45%を目指していきます。

② 食に関する実態等の調査

児童生徒の食生活の実態や各学校の食に関する指導の実際、学校給食に関する実態などを計画的に調査することにより、県内のさまざまな状況を的確に把握して施策の検討などに反映させています。

特に、朝食の実態では、野菜をほとんど毎日食べている児童生徒が半数もいないことが明らかになっています。朝食の大切さと併せてあわせて、その内容についても考えさせていく必要があります。